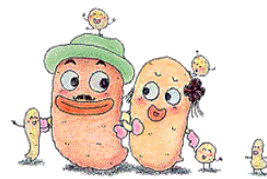


湯戸飛夜いけいけだよ



Jinen Joe family

記事:

- ・ 新年明けましておめでとうございます
- ・ 戸田駅前ビアガーデン「秋覚祭」を開店しました
- ・ 周南子ども夢まつりイカ焼きで出店しました
- ・ 西徳山いけいけ大収穫祭 in ソレーネ周南イカ焼きで出店しました
- ・ 連載小説『涙にぬれた蒼き思いー徳山七土物語』第10回
- ・ 西徳山の名産品「チシャなます」
- ・ 花いっぱい運動「春よ 来い！」
- ・ 今後の行事予定

会員募集中

あなたも「西徳山まちづくりの会」で一緒に活動しませんか。会では、常時、会員を募集しています。

E-mail:

nishitokuyamamatizuk
urinokai@gamail.com

発行 西徳山まちづくりの会

新年明けまして

おめでとうございます



平成31年の新春を迎え、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

私たち西徳山まちづくりの会は、平成10年6月14日に開催した第1回西徳山いけいけフェスタを契機に平成10年7月に結成しました。住み良い豊かな「まち」は、与えられるものではなく、住民自らが創り育てることによってはじめて実現するものであると考え、行政と対等な立場でのパートナーシップを大切にしながら、「楽しくなければ始まらない」を合言葉に西徳山地域の活性化を目標にまちづくり活動を続けています。

ふるさととはそこに住むみんなで守り育てていくものであり、基本は人と人のつながりです。顔を合わせ、話し合い、そして心を通わせ、ふれあう。より良いふるさとづくりには住民同士が楽しく交流し、お互いの良さを認め合い、力を合わせる事が重要です。会では、人と人が集う場所の提供として、戸田駅前ビアガーデンを年2回(納涼会と秋覚祭)開催しております。参加して、楽しく時を過ごしましょう。お待ちしております。

また、会では「戸田駅を花の駅にしよう」を目標に西徳山地区の玄関口である戸田駅前広場の環境美化に取り組んでいます。毎月第2、第4土曜日の16時(夏場は17時)から1時間程度、戸田駅前花壇のお世話、広場周辺の草取りなどの作業をしています。花育てに興味のある方、手伝っても良いと思われる方の参加をお待ちしております。

迎春



少人口、高齢社会を迎え、まちづくりの中で考える課題は山積しています。自分たちでできることは自分たちで行い、行政にしかできないことは積極的に働きかけていく。私たちは、皆が生き生きと暮らせる仕組みづくりを話し合い、行政に提案していきたいと考えております。西徳山まちづくりの会には老若男女誰でも参加できます。毎月第1水曜日に、夜市市民センターで西徳山まちづくりの会全体会を開催しています。

『自分たちの住むまちは自分たちでつくっていく』ものです。まちづくりに興味のある方の参加をお待ちしています。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

西徳山まちづくりの会

戸田駅前ビアガーデン

「秋覚祭」を開店しました

平成30年10月13日（土）12時30分より、戸田駅前で「秋覚祭（しゅうかくさい＝収穫祭）」と名付けた海鮮ビアガーデンを開店しました。

秋晴れの日差しが暑く感じる午後、秋の味覚を存分に愉しみました。秋刀魚（さんま）、サザエ、イカなど新鮮な海産物やさつまいもなどの農産物、秋の味覚と冷たいビールで至福のひと時を満喫しました。

今回は他の行事で参加できない会員が多く、用意した食材が余る事態となり、参加者の多くが、「もう満足！美味しくても、もう食べられない。」という羽目になりました。

次回の駅前ビアガーデンでは、多く方が参加できるよう日程を考え、戸田駅にポスターを掲示します。

皆さんの参加をお待ちしています。

（店主敬白）



周南こどもゆめまつり イカ焼きで出店しました



平成30年10月28日（日）に開催された周南こどもゆめまつりに、イカ焼きで出店しました。当日は晴天で、人出も多く、大盛況の祭りです。昨年は屋前には完売となったため、今年は、本数を増やしての販売です。

今年も、中学生ボランティアの手伝いがあり、屋台村の売り子、看板娘をお願いしました。会員も多くが参加し、イカは順調に焼けていきましたが、今年参加の子どもたちには不

気だったのか、こども通貨は集まりませんでした。例年通り大人には大人気でした。

“イカ焼き隊” これからも色々出店します。

（木）



西徳山いけいけ大収穫祭inソレーネ周南 イカ焼きで出店しました

平成30年11月11日（日）9時からソレーネ周南で開催された「西徳山いけいけ大収穫祭 inソレーネ周南」に、毎回大好評の「イカ焼き」で出店しました。網焼きで一匹ずつ丁寧に焼き上げ、

タレを付けると次々と売れていき、大変にうれしい状況でした。110杯のイカを準備していましたが、お昼過ぎには完売し、次回以降もイベントの際には出店をしたいと思います。

ぜひ、皆さんもイベントの際にご賞味ください。（村リン）



連載小説

『涙にぬれた蒼き思い—徳山七士物語—』 第10回 文 城山 耕筈

1864年8月12日、田中一学は、江田市之進の暗殺を野上家老に報告した後、十名あまりの徳山藩士と共に、小坂次郎佐の自宅に向かった。向かう面々の表情は熱気を帯び、常に冷静な田中一学も、顔を紅潮させていた。

小坂の自宅に着き、「小坂どの、おられるか。」と玄関先で田中一学が声をかけると、奥から妻（久子）が現れ、「だんな様は、只今外出をしております。何か、火急の御用件でございませうか。」との言葉が返ってきた。「いや、火急の用件ではありません。出直してまいります。」と言葉を発すると、田中一学は一団と共に、玄関先から退出していった。田中一学たちが退出して姿が見えなくなると、彼らの表情に危機感を感じた久子は、弟の百合若（元服後は小坂太郎）に、「だんな様は藩校におられます。身辺に注意するよう、伝えてきなさい。」と、全速力で藩校に走るよう命じた。

小坂次郎佐は、藩校での所用を済ませると、道中、長い棒を携えた一団が、足早に路地を移動している様子を見かけた。一団の様子は明らかに誰かの取り締まりに向かっており、野上家老が藩内の取り締まりに動き出したと、経験に裏付けられた勘が働いた。

自宅までの道中、次郎佐は、田中一学をはじめとする藩士達と遭遇した。先程は気負って訪問した田中一学も冷静になっており、殺気は消えていた。「これは、田中どの。何か問題でもありましたか？」との次郎佐からの問いに、「外出先から戻るところです。小坂どの、良い機会です。少しお話ができますか？」との言葉が返ってきた。「では、私の自宅で話をしましょう。」と次郎佐は答え、自宅までの帰路に田中一学達も同行することになった。

次郎佐が自宅に戻り、玄関先に立つと、青ざめた表情をした久子が玄関先に出迎えてきた。

「だんな様・・・」と次郎佐に話しかける瞬間と同時に、次郎佐が田中一学達に背を向

けて腰の帯にさしていた刀一式を下した僅かな瞬間、次郎佐の背後から、ザッ・・・と音がした。音がした直後、首元から吹き出す血潮で玄関先は朱に染まり、久子は更に顔をこわばらせた。「ああ・・・。」声にならない息が漏れ、返り血を帯びた田中一学に顔を向けた。上段から剣を振り下ろした田中一学は顔を紅潮させ、攻撃的な視線を次郎佐に向けていた。神道無念流と居合の心得のある田中であっても、いつか道場で対戦した次郎佐との正面攻撃には恐れがあった。次郎佐は虫の息で玄関先に倒れ、青空に薄い雲がさした蒼い空に変化していくと合わせるかのように、体が硬直して動かなくなった。田中一学達は動かなくなった次郎佐を見届けると、足早に帰っていった。享年23歳、立場の違う田中一学に対しても真摯に向き合おうとした次郎佐の姿勢は、全く報われない、非業の最期となった。

藩校に走っていた百合若は、次郎佐に会えず、うつむいた姿で自宅に戻る途上、鮮血に染まった田中一学の一団と遭遇した。足早に自宅を目指すと、玄関先に見覚えのある亡骸が横たわっていた。一帯を鮮血で染めた姿は目を覆うばかりで、姉の久子は亡骸にすがりついて気力を失っていた。その姿を目の当たりにした13歳の百合若は、小坂家を守る意識が前面にたち、冷静に亡骸の処置に対応した。15歳に達していない者は家督を継げない厳格な長州藩の掟は、小坂家に重くのしかかり、百合若は小坂家を取り潰しになってしまう運命に、大きな不安を感じた。

義兄である小坂次郎佐の死は、後年まで、百合若（元服後は小坂太郎）の人生に大きな影響を与える結果となった。

（以下次号）



西徳山まちづくりの会

編集後記

平成の時代が終わろうとしています。

私たちは、平成10年にまちづくりの会を立ち上げ、平成の大部分を活動してきました。平成7年は阪神淡路大震災が発災し、その復興のために多くのボランティアが参加して、ボランティア元年と位置付けられています。

私たちの足跡は、戸田駅前整備、国道2号、道の駅などのハード事業にその一端を見ることができます。

そして今、戸田駅前で花を咲かせ、一年に数回ビアガーデンを開店し、ソレーネ周南などのイベントに参加するといったソフト事業を行っています。

今年は自分たちへのご褒美に、京都旅行を企画したりしています。ご褒美と言っても自腹ですが・・・

平成の時代が終わっても、私たちは駅前で花を植え続けます。ビアガーデンでビールを飲み続けます。イベントでイカを焼き続けます。

若者よ！我々の後に続け。

発行責任者

会長 神本康雅
広報部長 木曾裕子

西徳山まちづくりの会

ホームページ URL:

nishitokuyama.web.fc2.com

西徳山の名産品 「チシャなます」

郷土料理としてチシャなます、けんちよう、いとこ煮等々あります。「チシャなます」は、「チシャもみ」とも言われ、食べられている地域は、萩を中心に山口県全域、広島県、岡山県、香川県です。使われるチシャは、搔きチシャといい、レタスの親戚です。7世紀頃奈良時代に入ってきた葉物野菜で、とても栄養価の高い野菜です。これを使った料理チシャなますは素朴な家庭料理で多くの人々から親しまれています。

チシャなますは萩を代表する郷土料理で、チシャはこの地方独自の赤みを帯びたちりめんチシャを使い、貧窮した武士のもてなし料理とも伝えられています。また、山頭火が『ふるさとはちしやもみがうまいふるさとにゐる』と詠んだことでも知られています。

(チシャなますの作り方)

食材 チシャ150g いりこ30g

調味料 味噌30g 砂糖20g 酢だいたい酢20CC

以前は、泥落としの時分によく作られた料理です。その頃採れる「赤いちりめんチシャ」を手でちぎり水に浸けてアクを取り、水気を絞ります。いりこの頭と腹を取ってカラ炒りしすり鉢ですり、味噌、酢だいたい酢を入れ酢味噌を作ります。食べる直前にチシャと酢味噌を和えます。

包丁もまな板もいらぬ画期的な調理法です。みなさんも作ってみませんか？

(昭)

花いっぱい運動

「春よ 来い！」

ほうき草の色の移り変わりを楽しんだ戸田駅前花壇ですが、春に向かって模様替えをしました。

駅出入口の交差点には葉ボタン、ノースポール、市道中村線沿いには4色のビオラ、東屋周辺にはチューリップを中心にキンセンカ、ノースポール、ビオラを植えています。ノースポールとビオラは種から育てました。

春よ 来い！皆さんに楽しんでいただけるといいなと思っています。

(ワタちゃん)



交差点



市道中村線沿い



東屋周辺

今後の行事予定

西徳山まちづくりの会全体会

原則として毎月第1水曜日の19時30分から夜市市民センター

戸田駅前広場周辺の清掃

毎月第2、第4土曜日の16時から、戸田駅前広場の清掃と花壇の手入れを行っています。

お手伝いしていただける方、大歓迎です。